平成１９年度

生徒用

「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査）

中学校　第１学年　国語

○問題用紙は４枚，解答用紙は２枚あります。

学校名	

年　　組　　号	
名　前	

熊本県教育委員会

1

今聞き取ったことをもとに、次の問いに答えなさい。

(1) 次に示したのは、山下さんのスピーチメモです。イに当てはまるスピーチの内容について書きなさい。

題　名『『水』を大切にしたい』
1　夏休みのできごと
　①　歯みがきのとき、水をむだづかいしたこと
　②　おばの言葉
2　水をむだにしていた私
　三つの例
　ア　茶わんを洗うときの水の使い方
　イ（　　）
　ウ　シャワーを使うときのお湯の使い方
3　まとめ
　①　外国の様子（水をくむ女の子のこと）
　②　思うだけでなく実行し、呼びかけたい

(2) 山下さんは、自分の思いを伝えるために、どんな工夫をしていましたか。その工夫として当てはまるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　同じ内容を何度もくり返しながら、聞く人の注意をひくように話している。
イ　伝えたい内容について、様子が伝わるように具体的な例をあげて話している。
ウ　伝える内容を事実と意見に分け、調査結果も示しながら話している。
エ　伝えたい内容について、ちがう意見を予想し、複数の話題について話している。

(3) スピーチで今度はあなたが話すことになりました。あなたが「大切にしたい」と考えているものについて、自分の体験を入れて、実際に話すように書きなさい。

2

(1) 次の問いに答えなさい。

次の文の――線の漢字の読みがなを書きなさい。また、――線のひらがなを漢字に直しなさい。

① 五万分の一の縮尺の地図を買う。　② 趣のある庭園だ。　③ 世界的な規模の建物だ。
④ うがい薬を水で薄める。　⑤ 隣の家の屋根は赤い。
⑥ ふつうの日は、早く起きる。　⑦ 洗たく物がかわく。　⑧ 落ち葉が水面にうかぶ。
⑨ びみょうなちがいに気づく。　⑩ はんきょうをまき起こす。

(2) 漢字にはたくさんの部首があり、その組み合わせで漢字も変わります。「寺」という漢字に「日」という部首を組み合わせると「時」という漢字になります。「寺」に他の部首を組み合わせて、「時」以外の漢字を一つ作りなさい。

(例)　寺 ＋ 日 → 時

(3) 次の――線の部分と同じ意味になるように、（　）に、それぞれ漢字一字を入れなさい。

・ 彼は、非の打ち所がない演技を見せた。＝ 申し（　）のない ＝ 文（　）の付けようがない

(4) 次の文は「何が」→「どうする」という組み立てに、修飾する言葉がついた形になっています。次のア～キから「何が」「どうする」にあたる部分をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　明日は　　イ　私の　　ウ　兄も　　エ　新幹線で　　オ　新八代駅から　　カ　鹿児島へ　　キ　行きます。

(5) 次の三つの会話には、故事成語が使われていますが、一つだけ使い方が適切ではない会話があります。次のA～Cから一つ選び、記号で答えなさい。

A
中田さん　「昨日の試合は厳しいゲームだったよ。これに負けたらもうあとがないから、必死の思いでがんばったよ。」
山本さん　「まさに**背水の陣**でのぞんだわけね。それで、結果はどうだったの。」

B
中村さん　「今日の国語の時間は、昨日書いた作文の語句のまちがいを直したり、文章を練り直したりしたんだ。」
小林さん　「文章を**推敲**したのね。作文もぐっとよくなったでしょう。」

C
吉田さん　「試験に備えて、夕べは夜中まで勉強したんだ。おかげで難しい問題も解けたよ。うれしいな。」
山田さん　「**漁夫の利**ってこういうことを言うんだね。努力すればいいことがあるね。」

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学校の体育教師だった「わたし」は、大けがをしてしまい、手や足を動かせない状態で入院している。同じ病室の「高久君」（中学生の男の子）と仲良くなるが、彼は治療の都合で東京の病院に移っていった。その後、彼のぼうしに病室のみんなで寄せ書きをすることになった。手が動かない「わたし」は口にサインペンをくわえ、字を書こうと思ったが、書けたのは小さな点だけだった。しかたなく母がぼうしを動かし、最初につけた点をのばした「お」と名まえの一文字「富」という字を書き、「お富」というサインができた。

（星野富弘「かぎりなくやさしい花々」による。）

(1) ――線①「高久君についてしまったうそを、すこしでもほんとうにしよう」について、「すこしでもほんとう」になるということは、どのようになることですか。次の□に当てはまる言葉を書きなさい。

・「わたし」が□になること。

(2) 母が「わたし」のことを心から応援している様子が表現されている一文を文章中から書き出しなさい。

(3) 最初は、高久君にうそをついてすまない気持ちでいっぱいだった「わたし」ですが、――線②「高久君についたうそも、ゆるしてもらえるような気がしました。」と変化しています。「わたし」になったつもりで、次の□に今までのがんばりや今のうれしさを書きなさい。

「わたしは『自分で書いた』と、うそをついたとき、高久君にすまないと思っていた。

□

だから、きっと高久君もゆるしてくれるよね。」

4

山口さんは、総合的な学習の時間に「みりょく発見！　くまもと」というテーマで、熊本のすばらしさについて調べる学習に取り組んでいます。熊本城についての資料を集めていたところ、次のような文章を見つけました。よく読んで、あとの問いに答えなさい。

（一～三は段落番号を示しています。）

一　熊本のシンボル、それは熊本城かもしれない。特に他県の人は、熊本に結びつくものとして熊本城をイメージする人も多い。確かに熊本城は熊本市の中心部に緑の楠の大木を従えて、でんと構えており、森の都「熊本」の代表的な建築物と言ってもいいだろう。その熊本城は、加藤清正が、一六〇七年に完成させたものだ。城内に入ると真っ先に目につくのが大楠と石垣である。楠は熊本の県木でもあり、石垣は独特の曲線を描く「武者返し」と呼ばれるものである。この石垣は、上部になるにつれて反り返し、容易には登れないようなつくりとなっている。

西南の役で一部を焼失する以前の熊本城は、今よりさらに雄大な城であった。その当時の姿をよみがえらせる第一歩として、築城四百年にあたる平成十九年をめざし、復元が進められてきた。

二　では、どのようにして、熊本城の復元は進められてきたのだろうか。

熊本城には、絵地図など多くの資料が残されている。そのため、資料に基づいて、できるだけ当時に近い姿で復元することが可能なのである。そこで、材料、工法、道具類にいたるまで、専門家による調査が徹底的に行われ、平成十年に復元が始まったのである。

しかし、城の復元の中でもこれほど大がかりな本丸御殿の復元は、わが国でも初めてのことである。まず、復元にあたっては大量の大木が必要であった。使用されたケヤキの三割は県産材を使い、マツは県南部の市房山で見つけられた直径八十センチメートルの大マツ三百本が使われた。

また、九州の城は、台風に備えて屋根瓦を白漆喰*でとめるのが特色である。それは、熊本城も同様である。熊本城の場合はさらに復元後の手入れを考えて、瓦も熊本産のものを使った。また、壁土づくりには、一年をかけた。土とわらを混ぜてねかせる作業をくり返し、じっくり発酵させると、ねばりのある、かたくてじょうぶな壁土ができ上がる。それを、竹で編んだ下地に塗りこんで、ようやく土塗り壁が完成する*のだ。さらに、道具類も伝統のものを使い、柱は、一本ずつ手斧*をかけて削った。このように、材料や工法など細かい所にこだわってはじめて、当時の姿に近づけることが可能になったのである。

三　歴史的な建築物の復元整備には、材料の性質まで知りつくした職人が必要である。そこで、大工や左官*も地元で集め、将来の解体修理に備えて、若い職人の育成と技術の伝承も行っている。つまり、城を復元するばかりではなく、城造りの技術を伝えていくことで、文化の継承*を図っているのだ。職人たちは、そのような自分たちの仕事を誇りに思っている。そして、ふるさと「熊本」への熱い思いを持ってこの仕事に取り組んでいるのだ。

＊漆喰・・・石灰に、粘土などを混ぜて練ったもの。
＊手斧・・・ておの。大工道具の一種。材木を粗く削るのに使う鍬形のもの。
＊左官・・・壁を塗る職人。
＊継承・・・うけつぐこと。

二　熊本城の復元

資料に基づく調査
残された多くの資料
←
専門家による徹底調査
・材料、工法、道具類など

復元
① 材料
・熊本県産の材木、瓦
② 工法
・屋根瓦をとめる漆喰
・一年かけてつくる壁土
③ 道具
・柱を削る手斧

（　　ア　　）たいという思い

(1) 一の段落から、熊本城を紹介する短い文を、（例）を参考に「　　」の形で書きなさい。

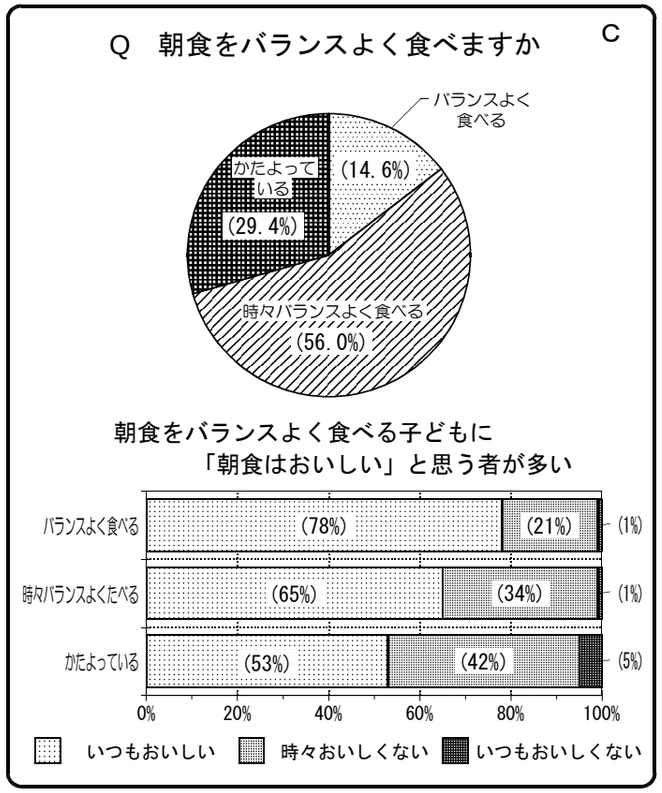
（例）熊本市の中心部に、でんと構えている　熊本城

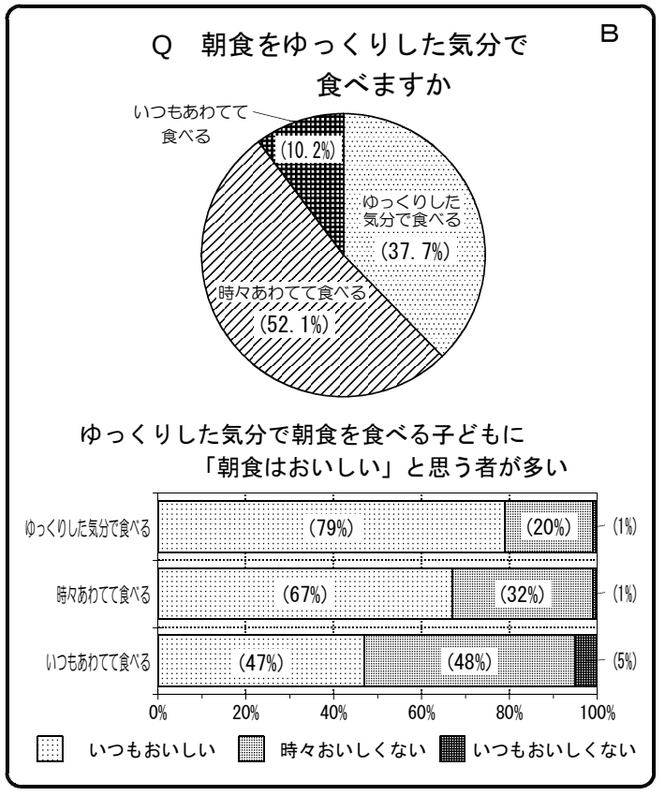
(2) 山口さんは、これからの学習に使う資料の一つとして、二の段落を上のようにまとめてみました。（　ア　）に当てはまる言葉を、文章中の語句を使って書きなさい。

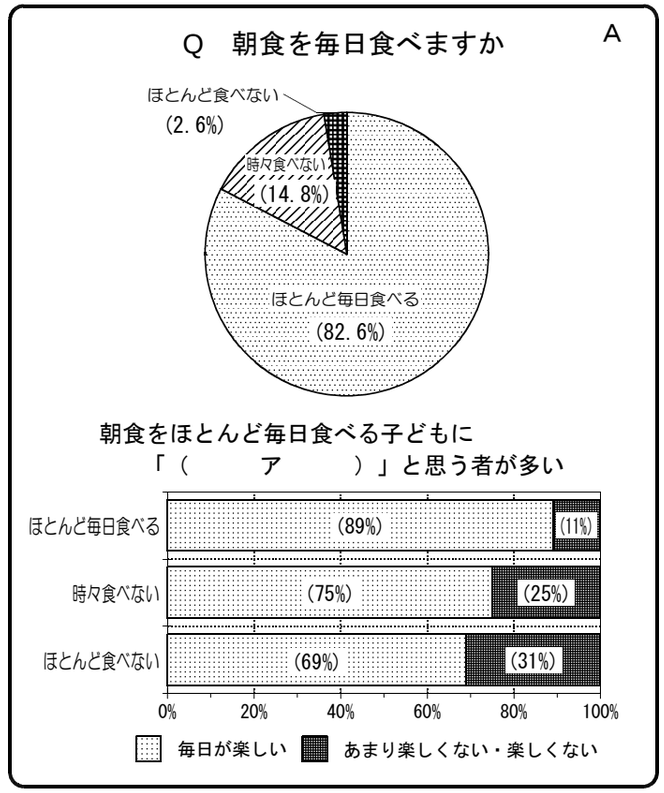
(3) 山口さんは、この文章を読んで、「熊本城復元整備とそれにかける職人たちの思い」という題名で感想を書こうと考えています。

あなたもこの題名で「ふるさと」や「仕事」に対する自分の思いや考えを入れて、この文章に対する感想や意見を書きなさい。

田中さんの学級には、朝食をとらずに登校している人が、何人かいるようです。
そこで、田中さんたちのグループでは、学級の意見発表会で「朝食の大切さ」について、発表することにしました。まず、最初に学校栄養職員の先生のお話を聞きました。次のA・B・Cの資料はそのときに先生が示されたある町の中学生の調査結果です。よく読んで、あとの問いに答えなさい。







学校栄養職員の先生から

朝から体がだるかったり、頭がぼんやりして授業に集中できないことはありませんか。そんなときは、朝食を食べなかったときが多いのではないでしょうか。

朝食を食べないと、体が活動を始めても、体温が十分に上がりません。そして、脳にエネルギーがいかないのです。

脳のエネルギーになるのは、血液中の糖分だけで、それは、食事をとることでしか増やすことができません。だから、朝食を食べないと、頭が十分働かないのです。

つまり、朝食を抜くと、前の日の夜から昼までの十六時間くらい、脳に必要な糖分がいきわたらないことになり、

①頭がぼんやりして、スッキリしない。
②立ちくらみがおきる。
③甘いものがほしくなる。
④いつも体がだるい。

などの症状があらわれることになります。

小・中学生を対象とした調査によると、朝食をきちんと食べている子どもほど、活動意欲が高く、体調もよいという結果が出ています。上のグラフは調査結果の一部です。

(1) **A** の帯グラフの「（ **ア** ）」欄に適当な語句を書き、グラフの見出しを完成させなさい。

(2) あなたも、ゆう子さんのグループの一人として意見発表会に参加することになりました。朝食の大切さについて、意見文を書きなさい。

① 意見文を書くために使いたいグラフの記号を書きなさい。いくつ使ってもかまいません。

② 資料を参考にして、意見文の題名を工夫してつけなさい。

③ あなたが選んだグラフから分かったことをもとにあなたのこれまでの経験を入れて、朝食の大切さについて百五十字程度で意見文を書きなさい。